

平成29年度 第2回 安曇野市協働のまちづくり推進基本方針
及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会 会議概要

1	審議会名	平成29年度第2回安曇野市協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり推進行動計画策定・評価委員会
2	日 時	平成29年8月8日(火) 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会 場	本庁舎 3階 共用会議室307
4	出席者	丸山委員、栗田委員、山田(直)委員、太神委員、吉田委員、佐治委員、細川委員、青柳委員、小澤委員、山田(百)委員、西澤委員、望月委員
5	市側出席者	宮澤市民生活部長、小林地域づくり課長、山田地域づくり課長補佐兼まちづくり推進係長、金子まちづくり推進係主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 3人
8	会議概要作成年月日	平成29年8月16日

協 議 事 項 等

1	会議の概要	<p>(1) 開会</p> <p>(2) あいさつ</p> <p>(3) 報告事項</p> <p>①本年度実施中の個別協働事業について</p> <p>②「協働のまちづくり」に関するアンケート調査の実施について</p> <p>(4) 審議事項</p> <p>①協働計画に基づく進捗状況について</p> <p>②平成29年度先進地視察研修の実施について</p> <p>(5) その他</p> <p>(6) 閉会</p>
2	会議事項概要	<p>(1) 開会(進行:細川副会長)</p> <p>(2) あいさつ(栗田会長)</p> <p>(3) 報告事項(進行:栗田会長)</p> <p>①本年度実施中の個別協働事業について</p> <p>【会長】事務局より報告をお願いします。</p> <p>【事務局】市役所庁内より、各課にて本年度実施する協働事業(36事業)について情報提供いただいたことを報告。</p> <p>【委員】情報提供をいただく協働事業の定義はあるのか。</p> <p>【事務局】協働の形態における、「共催」「実行委員会」「事業協力(協定)」に該当するものとしているが、この形態によらずとも、いわゆる補助金の交付のみ等ではなく、市民と行政が共に汗をかく事業を挙げている。</p> <p>【委員】実際には、報告いただいた事業以外にもあるということと捉えてよいか。</p> <p>【事務局】そのようなものもあるかと思う。各担当課で判断し情報提供いただいた事業を報告したものである。</p> <p>【委員】「実行委員会」の形態がいくつか見受けられるが、事務局は市が担っているのか民間が担っているのか、数はどの程度か。</p> <p>【事務局】個々の事務局の主体については把握していない。計画では、「実行委員会」は、「市以外のあらゆる主体や市などで実行委員会などを立ち上げて事業を行うこと」とされている。</p>

【委員】 行政の中に事務局を置く実行委員会もあるということによいか。

【事務局】 その通りである。

②「協働のまちづくり」に関するアンケート調査の実施について

【会長】 事務局より報告をお願いします。

【事務局】 現計画の評価・検証及び次期計画の策定の参考とするため、「協働のまちづくり」に関するアンケート調査を、市民2,000人（無作為抽出）を対象に本年末頃に実施することを報告。また、アンケート票の素案は、第3回委員会（11月頃予定）でお示しすることを報告。

【会長】 質問がある方は、挙手にてお願いしたい。

【委員】 アンケート調査対象数は2,000人では少ないのではないか。アンケートが手元に届くだけで協働について考える機会となる。

【事務局】 アンケートの効果であるが、2,000人を対象とし、400人以上の回答が得られれば、アンケート結果としては有効である、とされている。確かにより多い人数を対象とすれば良いが、基準の中で2,000人とさせていただいた。

【委員】 安曇野市は市民が「協働」への理解が進んでいないので、少しでも広まれば良いと考える。

【会長】 現計画策定時には、アンケート調査を行ったか。

【事務局】 行っていない。

【会長】 「協働」については初めて実施するのか。

【事務局】 今回、現計画の実証という形で行わせていただく。

【会長】 現時点で事務局で検討している調査内容がわかればイメージをしやすい。

【事務局】 そのあたりも含めてご意見を頂戴できればと考えている。安曇野市の協働の推進において、進んでいない部分をどう進めていくか、というようなことが伺えれば、次期計画に活かしていけるのではないかとも思う。

【委員】 対象者の抽出方法と回収方法について。対象者はどのように抽出するのか。また、回収方法は郵送であると回収率がかなり下がる。以前、区や民生委員などに回収を依頼したことがあるが、そのような検討の余地はあるか。

【事務局】 無作為抽出は、住民基本台帳より、男女1,000人ずつ、また、人口割りで地域別、年代別で行う。回収方法だが、区長は非常に多忙であることから、基本的には郵送と考えている。

【委員】 協働という意味もわからず委員となったが、シンプルに考えれば、協働とは自分にできることは何か、ということだと思う。時代や価値観が目まぐるしく変わる中で、これからを担う若者を中心に意見を聞くことが良いと考える。

【委員】 今の意見には賛成である。アンケート自体が協働の啓発、参加への動機づけと考える。18歳以下も含めて啓発の働きかけを行うことが効果的ではないか。

【会長】 啓発ということではそうかもしれないが、各世代の状況を把握することがアンケート調査の目的であるので、慎重に考えるべき。

【委員】 事前に説明会などで協働の説明を十分にしておくことで、実のある調査になるのではないか。

【会長】 協働について市民の理解度の把握が目的とすれば、説明会を行う場合は、考えが誘導される可能性があるので、調査結果に影響を与えないよう、配慮が必要。

【委員】 過去に自治基本条例のアンケート調査を実施した際、ほとんどの市民は自治基本条例についてわかっていなかった。説明会を開催して、参加者がほとんどいなければ意味がないので、アンケートで実施することが良いと考える。また、市からの情

報発信は、きちんと市民の身になるよう、様々な工夫をして行ってほしい。

【委員】アンケートが届く市民の中には、協働事業に参加した経験がある方もいるかもしれない。しかし、参加した時に、その事業が協働事業だったとはわからない。協働事業の参考例をいくつか示しておくことで、理解が進むのではないか。

【委員】先ほど、若い方を中心に、という意見があり、その通りであるが、色んな年代とすり合わせていくことも大切であり、年代別の無作為抽出に賛成する。

【委員】色んな方から意見を聞くのは基本で大切であるが、時代の流れが早い中で思った意見を述べた。大町、松本など見てきたが、安曇野は遅れている。比較するのではないが、安曇野独自の発想が必要で、そのためには若い人の意見を聞いた方が良く考える。

【委員】地域別、年代別に幅広い意見を聞くことに賛成する。安曇野にどの程度、協働が浸透しているのかわからない。協働の認知度や関心度などの現状がわかるようなアンケートを行うことで、次の一手が見えてくるのではないか。

【委員】今の意見に賛成する。若い方も意識をもたないとアンケートを見ない。協働がわからなくても、知ろうという気持ちがあれば、年齢は関係ない。

【委員】今回のアンケートを何のためにやるのか、ということに焦点が合っていないと、どういうアンケートにするか、という議論にならない。今回は、現状初めてのアンケートである。通常の状態で市民が協働についてどう考えているか、現状把握が大前提とすれば、「協働」の理解度を把握するための項目を入れることを提案したい。若い方の意見には期待することが大きいですが、本アンケートの趣旨ではない。ワークショップなど別の機会を計画の中に位置づけていくのが良いと考える。アンケートには、協働についてわかりやすい説明書きを記しておくことが大切。

【委員】安曇野市は協働についてこれまで取り組んできて、まだこの程度かと思う。どんどん進めたい。協働はシンプルに考えれば予算が無い中、自分でできることは自分でしようということ。

(4) 審議事項

①協働計画に基づく進捗状況について

【会長】事務局より説明をお願いします。

【事務局】協働の計画の各施策の取組実績及びこれまでの進捗状況の評価について説明。

【会長】事務局より説明をいただいた。協働の推進に向けて、委員よりご意見をいただきたい。

【委員】大学のホームページとのリンクとあるが、これはできていないと思うがいかがか。

【事務局】市民活動サポートセンターのホームページでリンクしている。

【委員】市のホームページではリンクされていないのか。

【事務局】市のホームページでは、直接大学のホームページとのリンクはしていない。

【委員】この場で申し上げることではないが、市のホームページが非常にわかりにくい。また、委員会のページも表記の仕方が各委員会で異なっている。統一していただきたい。

【委員】私も確かめてみたが、大学のホームページとのリンクが探せなかった。

【委員】「協働」について、市役所職員はどの程度認知しているか。他の課の職員へ話をしてみても、認知度が低いように感じる。

【委員】以前に比べたら、職員の意識は高まっていると、一市民として感じる。

【事務局】「協働」の概念であるが、行政にお金が無くなったので市民の皆さんにやっていただく、というように捉われることがあるが、そうではない。社会情勢が大きく変化中、1つの団体では解決できない複雑な課題が非常に多くなっている。同じ目的、課題をもった団体同士が手をつなぎ、お互いができることをやって、できないことを補い合うのが協働である。職員の意識ではあるが、市の総合計画に基づく各個別計画では「協働」が謳われている。職員は市民の皆さんと汗をかきながらより良い地域をつくっていく、という意識はもっている。ただし、全員が同じ意識かどうかはわからない。職員研修や、市民協働事業提案制度など、様々な角度から「協働」について学びながら、進めている。認知度が低い、というご意見をいただくということは、まだまだな点があると思われるので、今後も職員へ啓発していく。

【委員】区担当職員であるが、居住区の区長へ聞いてみたが知らなかった。周知徹底がされていないのではないか。

【事務局】区担当職員について、4月に開催される各地域区長会で全区長へ周知し、区担当職員の名簿をお渡ししている。

【会長】企業に関する進捗について遅れているように感じるが、どのような状況か説明をいただきたい。

【事務局】企業は、協働まで余裕がないのが現状と思われる。協働はwin-winでなければならない。企業と協働する場合には、企業に負担をかけてしまうことが多くなってしまふ。企業にとってプラスとなるような協働を模索していかなければならない。現計画策定時に商工会で説明をしたが、企業のメリットが見いだせないところがあった。次期計画に向けた課題と考えている。

【委員】企業について、企業を紹介するようなチャンスを与えていただき、市民に知っていただくチャンス、市とつながるチャンスがあるのではないかとというヒントを与える機会にもなるので、そのような機会を広めていただきたい。

【会長】企業との協働について当初どのような見通しがあったか。

【事務局】企業との協働事業はある。企業と地域の協働もある。ただし、全ての企業が同じようにやっていくことは難しいこともあり、それぞれの企業に目的があるので、その目的と合致する団体が一つになっていくことが重要だと考える。その仕組みすら現状無いため、仕組み作りから始めていかなければならないと思う。

【委員】協働という中で見た場合、企業も地域の同じ住民である。企業を最初から別とするのではなく、同じ住民として、肩肘張らず、地域課題について一緒に解決するようなつながりをもつことができれば良いのではないかと。福祉施設も地域とのつながりの中で成果を生んでいる。

【委員】市民協働ワークショップに参加している中で、若者が働く場所が無いという意見があった。協働を理解し実践してくれる企業を誘致したらどうか。

【委員】市民活動サポートセンターのところが評価が低いように思うが、ここがうまく回りだせば、全体に評価が上がってくると思う。現状の課題や、あと2年の中での対策案があれば教えていただきたい。

【事務局】市民活動サポートセンターは協働の拠点として、一番必要なのはコーディネーター機能である。様々な団体の課題などの情報を収集する中で、ネットワークづくりに力を入れていこうと取り組んでいる。そのため、協働コーディネーター養成講座にてコーディネーターを養成し、修了生にセンターの運営に関わっていただいている。情報収集の体制はつくったが、情報収集の活動が中々進んでいないことが課題。センターに配置したコーディネーターも、実践の中でスキルアップを図りながら機能を強化しようとして取り組んでいるが、その点も課題である。

【委員】 今回の評価した主体であるが、個々に取り組んだ方が評価したのか。

【事務局】 現状を示すものとして、事務局で評価したもの。

【会長】 人材バンクについて、人材バンクに登録するとどのような情報が載るのか。

【事務局】 教育委員会で人材バンクの登録を行っている。ジャンル別に登録ができる。そこに、地域リーダーとコーディネーターを登録していくことを当初考えていた。しかし、講座修了後にすぐに登録して能力が発揮できるか、といえは難しいので、スキルアップを図る中で、登録をしていくことを考えていく。

【会長】 登録分野の中に名前が載っていくということか。

【事務局】 その通りである。

【委員】 社会福祉協議会のボランティアセンターのノウハウを、市民活動サポートセンターに教えていただけたらいかがか。社協は各団体のことをよく把握している。

【委員】 情報の一元化では、ボランティア団体の情報誌を一緒に作っている。他には、地元に着した互助活動を抽出して集約した「ごじょネット」、また、高齢者を中心としたサービスあるいはボランティアを集約し、生活支援体制整備事業で作成した「サービスガイドブック」など色々ある。いずれ集約し、更新しながら、欲しい情報にアクセスしやすい環境をつくっていくことが必要と思う。市民活動サポートセンターとも一緒にやっていくことは以前よりスタンスとしてできている。冊子を作るだけでなく、お互いの機能や特徴を生かしながら、一緒にできるところは一緒にやっていきたい。

【事務局】 社会福祉協議会とは連携していこうと進めてきた。また、中間支援団体として活動されている「えんのわ」の山田さんも委員となっていた。色んなノウハウをいただきたい。皆さんに一度市民活動サポートセンターに訪れていただき、実態を把握していただきたい。情報とコーディネートが今一つということが見えてきた。次期計画に向けてどうしていくか、というご意見をいただきたい。また、企業との接点をどうするか、仕組みをどうするか、ご意見をいただきたいと思う。

【委員】 人材バンクに3つほど登録している。社協には各支所を毎日訪問して、私なりに良いところ、悪いところを調査している。自分でやろうとは思わないが、気づいてもらえるように、当事者に考えていただきたいとやっている。

【委員】 ボランティアコーディネーターは、日ごろから声掛けをいただき、密な関係ができていく。市民活動サポートセンターは、遠いと感じる。各支所があるので、各支所にコーディネーターがいると、身近に感じて相談などもしやすい。

【委員】 行動要領について、平成26年度に作られたものであるが、施策そのものが目標に対して合っているのか、他にも施策があったのか、現時点ではどうなのか。

【事務局】 委員のおっしゃるとおりの部分、当然あらうと思われる。それも含めて、委員会の中でも審議していただき、次期計画に反映していきたい。

【委員】 評価は、1年ごとに評価しているのか。

【事務局】 進捗状況は委員会で毎回報告をさせていただき、年度毎の評価も、委員会でやっている。

【委員】 何度か、「部制度」という言葉が出てくるが、簡単に説明をいただきたい。

【事務局】 人口減少、少子高齢化などの社会情勢の変化の中で、各区では担い手不足や区未加入、また、事業のマンネリ化など課題が山積している。そのような課題の解決に向けて、1つは区内の組織が横断的に連携をし、効率的かつ効果的な運営ができるような組織化を図ること、2つ目は、役員だけでなく、みんなでできることをできる人ができる範囲で行う仕組みをつくるために、区長会で検討しているものが「部制度」。

【委員】「部」というのはどのようなものか。

【事務局】福祉を例にとれば、区内には福祉に関連する組織がいくつかある。これらが連携を図れるようまとめたものが「部」である。

【委員】区によって異なると思うが、当区では、区長が当番制である。本年度は女性が区長となった。なぜなったのか聞いたら、他にやる人がいなかったとのこと。現実はそのような状況。

【委員】区の現状は、区が一番よくわかっていること。今回は現計画の評価、次期計画をどう位置付けていくかを改めて見直していく機会だと思う。個別の問題はわかっている、現状はアンケートで調査し、出てきた課題に対しどう取り組んでいくかが本題になる。そのためにも、事務局に意見を求めるだけでなく、委員の皆さん同士で考え、意見を交換できるように心がけていただければと考える。

②平成29年度先進地視察研修の実施について

【会長】事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】先進地視察候補地として、愛知県刈谷市、東京都府中市、長野県松本市を紹介。

【委員】公民館は日本独特の文化である。松本では公民館を核とした地域づくりを行っている。14カ国がユニセフを通じて視察にきている。特に福祉ひろばができて、生活課題に日常的に取り組んでいる。近くではあるが良い事例。皆さんと話題を共有し議論ができればと思い紹介する。

【委員】松本と比べて安曇野市は市も社協も講師の選び方がよくない。違いを感じる。

【委員】松本市は近いが進んでいる。密度の濃い視察ができると思う。

【委員】松本市は、老人大学など福祉関係は力を入れてやられている。また、信州大学などと連携してまちづくりを行っているようなことも聞いている。安曇野市に取り込むということではないが、近くの事例をヒントにして、つながるチャンスが転がっている可能性があるので、松本市を視察することに賛成する。

【委員】刈谷も府中も合併はあまりしていないのではないかと。松本は合併して広くなり、中心地と、離れたところで意識が異なるのではないかと思う。安曇野市も同様であるので、松本市を視察し学ぶことは、安曇野市にとって有益なものとなると思う。

【会長】松本市という方向性でご意見をいただいたが、事務局の意向はどうか。

【事務局】福祉施策について法的なものは同じだが、松本市の福祉ひろばは市民が主体となった福祉のまちづくりを行っている。松本市は公民館理念がしっかりしていて、自分たちのことは自分たちでやろうという意識が高い。形を真似することはできないが、理念や考えを学ぶには非常に良いところである。地域に根差した取り組みができているところであり、視野を広げて見てくるには良い。

【委員】松本市は、教育や公民館活動をどうしようか、という中で、地域課題は福祉である、ということで、福祉が重要視されて、福祉の職員と社会教育の職員が一体となって20年以上かけて福祉ひろばをつくりあげてきた。松本市の職員に聞けば、やっていることは大きく変わらないが、意識が違うとのこと。ここを見てもらいたい。

【委員】安曇野の歴史に学んで、先人の知恵を活かした安曇野独自の協働を、自信をもって進めてもらいたい。

【会長】計画を推進していく上での視察先として、地域づくり課の意向はどうか。

【事務局】 協働の原点は、一人ひとりができることをやることがベースであるが、これが協働ではない。一人ひとりができることをやるが、できないことをお互いで補い合うのが協働。松本市は公民館理念の中で、皆さんで学んで実践しているので、そこを学んでくることは重要だと考える。

【会長】 視察先は松本市という方向で調整をお願いする。

【事務局】 日程はいかがか。10月中旬から11月中旬頃を考えている。

【会長】 相手方との調整の中で、数日の候補日を出していただいて調整することとしたい。

【事務局】 日程の調整について、改めて委員の皆さまにご連絡させていただく。

(5) その他

特になし。

(6) 閉会

【会長】 以上で全ての議事を終了とする。

【副会長】 平成29年度第2回協働のまちづくり推進基本方針及び協働のまちづくり行動計画策定・評価委員会を閉会します。熱心なご審議、ありがとうございました。

以上